

平成 17 年愛知県人口動向調査

名古屋市の自然増減・社会増減

(平成 16 年 10 月～平成 17 年 9 月)

平成 18 年 3 月

名古屋市総務局企画部統計課

1 概況

自然増は昭和40年以降で最小の2,235人、社会増は昭和40年以降で最大の10,796人

平成16年10月から平成17年9月までの1年間（以下、「1年間」又は「平成17年」という。）の出生数は19,647人となり、2年ぶりに2万人を下回り、第2次ベビーブーム期の昭和47年（42,598人）の46.1%の規模にまで縮小した。1年間の死亡数は17,412人となり、昭和40年以降で最多となっている。その結果、自然増減数（出生数 - 死亡数）は2,235人の出生超過（自然増）となり、昭和40年以降のピークである昭和47年（32,365人）の6.9%の規模にまで縮小した。 [図1、付表1]

一方、1年間の転入数（市内区間移動、その他の増減（職権記載、職権消除等）を含む。転出数も同様。）は160,119人となり、昭和56年以来24年ぶりに16万人台となった。1年間の転出数は149,323人となり、3年ぶりに15万人を下回った。その結果、社会増減数（転入数 - 転出数）は10,796人の転入超過（社会増）となり、昭和40年以来40年ぶりに1万人台となった。 [図2、付表1]

図1 自然増減数の推移

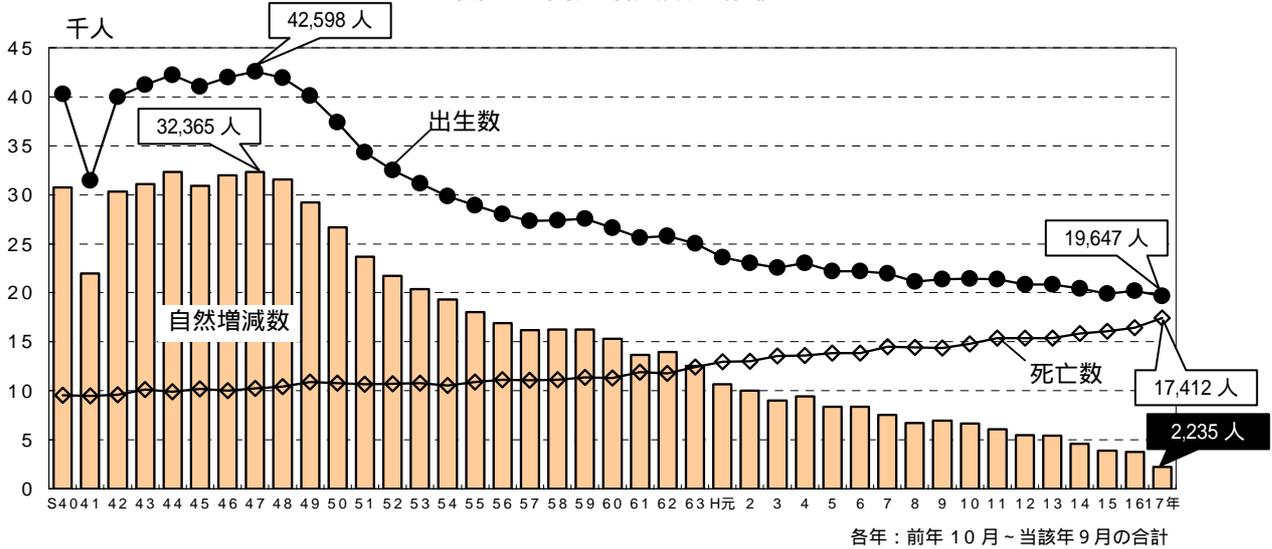
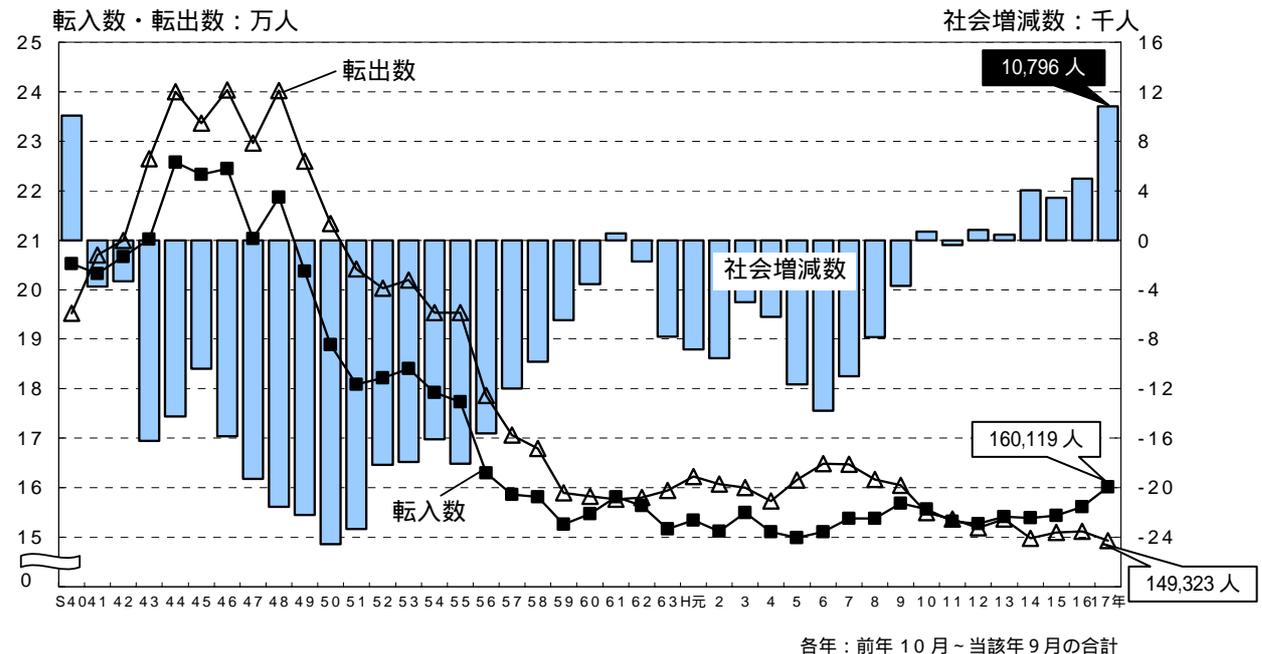


図2 社会増減数の推移



付表1 名古屋市の自然増減数及び社会増減数の推移

		各年前年10月～当該年9月				
年 別	出生数	死亡数	自然増減数	転入数	転出数	社会増減数
昭和 40 年	40,265	9,532	30,733	205,253	195,202	10,051
41	31,436	9,490	21,946	203,255	206,987	-3,732
42	39,972	9,626	30,346	206,602	209,935	-3,333
43	41,213	10,134	31,079	210,170	226,397	-16,227
44	42,233	9,922	32,311	225,792	240,035	-14,243
45	41,082	10,178	30,904	223,233	233,611	-10,378
46	42,000	10,017	31,983	224,488	240,320	-15,832
47	42,598	10,233	32,365	210,320	229,614	-19,294
48	41,963	10,413	31,550	218,671	240,227	-21,556
49	40,113	10,898	29,215	203,701	225,923	-22,222
50	37,417	10,757	26,660	188,827	213,398	-24,571
51	34,325	10,647	23,678	180,893	204,215	-23,322
52	32,484	10,726	21,758	182,151	200,302	-18,151
53	31,162	10,753	20,409	184,016	201,927	-17,911
54	29,841	10,540	19,301	179,208	195,295	-16,087
55	28,907	10,885	18,022	177,293	195,347	-18,054
56	28,019	11,131	16,888	162,976	178,603	-15,627
57	27,319	11,094	16,225	158,653	170,625	-11,972
58	27,384	11,135	16,249	158,096	167,931	-9,835
59	27,591	11,356	16,235	152,554	159,019	-6,465
60	26,619	11,302	15,317	154,677	158,216	-3,539
61	25,597	11,903	13,694	158,179	157,622	557
62	25,775	11,801	13,974	156,364	158,074	-1,710
63	25,006	12,434	12,572	151,614	159,415	-7,801
平成 元 年	23,638	12,963	10,675	153,456	162,281	-8,825
2	23,025	12,996	10,029	151,206	160,744	-9,538
3	22,543	13,528	9,015	154,972	159,996	-5,024
4	23,018	13,597	9,421	151,074	157,272	-6,198
5	22,212	13,842	8,370	149,878	161,542	-11,664
6	22,208	13,832	8,376	151,055	164,851	-13,796
7	21,983	14,470	7,513	153,786	164,758	-10,972
8	21,162	14,440	6,722	153,798	161,620	-7,822
9	21,363	14,395	6,968	156,865	160,541	-3,676
10	21,444	14,809	6,635	155,648	154,979	669
11	21,399	15,356	6,043	153,209	153,605	-396
12	20,858	15,363	5,495	152,679	151,839	840
13	20,835	15,393	5,442	154,113	153,661	452
14	20,427	15,851	4,576	153,868	149,820	4,048
15	19,936	16,055	3,881	154,359	150,939	3,420
16	20,189	16,419	3,770	156,096	151,131	4,965
17	19,647	17,412	2,235	160,119	149,323	10,796

(注) 転入数、転出数、社会増減数には、市区内間移動及びその他の増減(職権記載、職権消除等)を含む。

2 自然増減

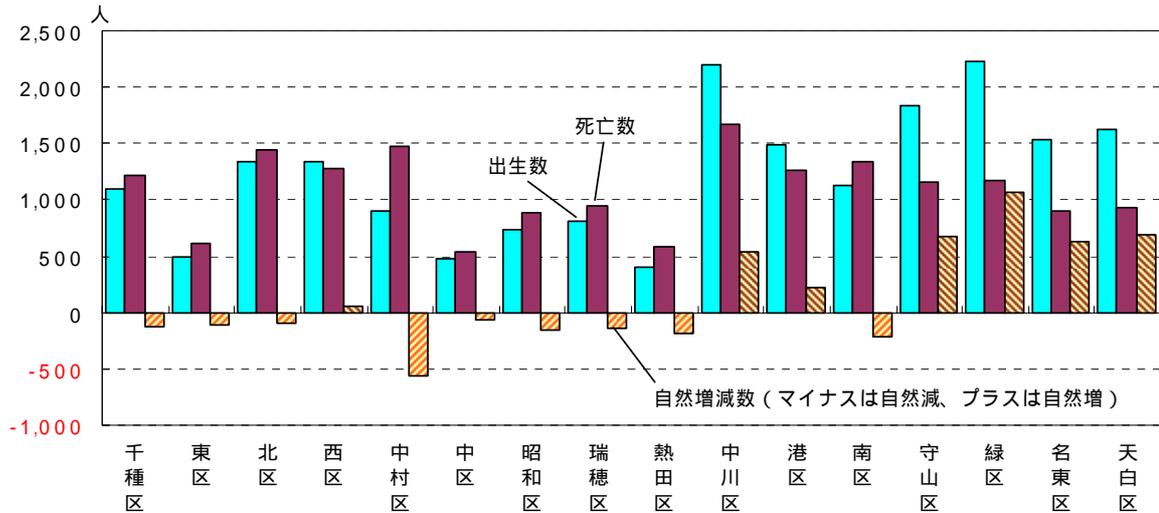
(1) 区別の自然増減数

自然増は7区、自然減は9区

自然増減数を区別にみると、自然増となった区は7区であり、緑区が最大の1,062人で、以下天白区の696人、守山区の679人、名東区の633人の順となっている。

自然減となったのは9区であるが、うち、中村区及び中区は平成5年以降13年連続で自然減となっており、瑞穂区及び熱田区は平成7年以降11年連続、東区、昭和区及び南区は平成14年以降4年連続で自然減となっている。 [図3、付表2]

図3 区別の出生数、死亡数及び自然増減数 ~平成17年~



付表2 区別自然増減数の推移

区別	各年前年10月～当該年9月													
	平成4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年
全市	9,421	8,370	8,376	7,513	6,722	6,968	6,635	6,043	5,495	5,442	4,576	3,881	3,770	2,235
千種区	293	127	204	206	88	88	89	176	70	59	-31	-6	58	-128
東区	68	-11	81	22	39	12	45	-41	6	19	-8	-31	-91	-107
北区	746	636	734	454	406	337	376	323	244	182	155	75	91	-101
西区	367	274	296	405	320	244	258	235	273	197	148	186	84	62
中村区	47	-27	-120	-185	-324	-264	-277	-370	-404	-352	-429	-486	-443	-569
中区	29	-48	-33	-76	-112	-74	-58	-117	-67	-84	-58	-157	-75	-72
昭和区	87	56	57	-15	33	38	13	-20	19	32	-19	-44	-47	-149
瑞穂区	195	76	78	-30	-37	-32	-45	-49	-5	-46	-55	-58	-87	-138
熱田区	51	101	82	-8	-55	-59	-7	-95	-51	-64	-117	-164	-85	-184
中川区	1,254	1,097	1,170	1,141	1,066	1,057	888	962	778	944	621	645	653	541
港区	846	818	721	698	719	789	732	666	532	505	465	345	408	220
南区	408	405	261	296	247	247	82	83	32	19	-5	-86	-174	-210
守山区	907	888	902	864	794	862	843	784	712	790	743	647	711	679
緑区	1,510	1,413	1,427	1,430	1,356	1,418	1,494	1,404	1,448	1,384	1,441	1,289	1,289	1,062
名東区	1,336	1,271	1,246	1,129	1,067	1,096	999	943	887	880	840	895	766	633
天白区	1,277	1,294	1,270	1,182	1,115	1,209	1,203	1,159	1,021	977	885	831	712	696

(2) 自然増減数の季節変動

冬期の自然減が顕著に

1日あたりの出生数は、明確な季節変動がないが、死亡数は、冬季（1月～3月）に増加する傾向がある。 [図4、図5]

毎月の自然増減数は、最近5年間では平成15年1月に初めて自然減となり、翌年も1月のみ自然減となったが、平成17年には、1月から3月まで3か月連続で自然減となった。 [図6]

図4 毎月の出生数の推移(1日当たり換算)

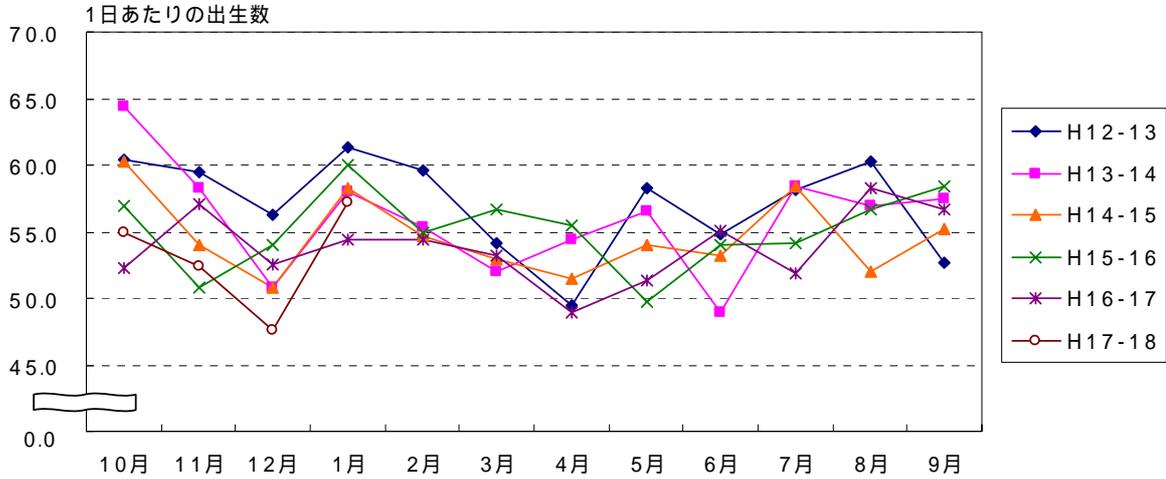


図5 毎月の死亡数の推移(1日当たり換算)

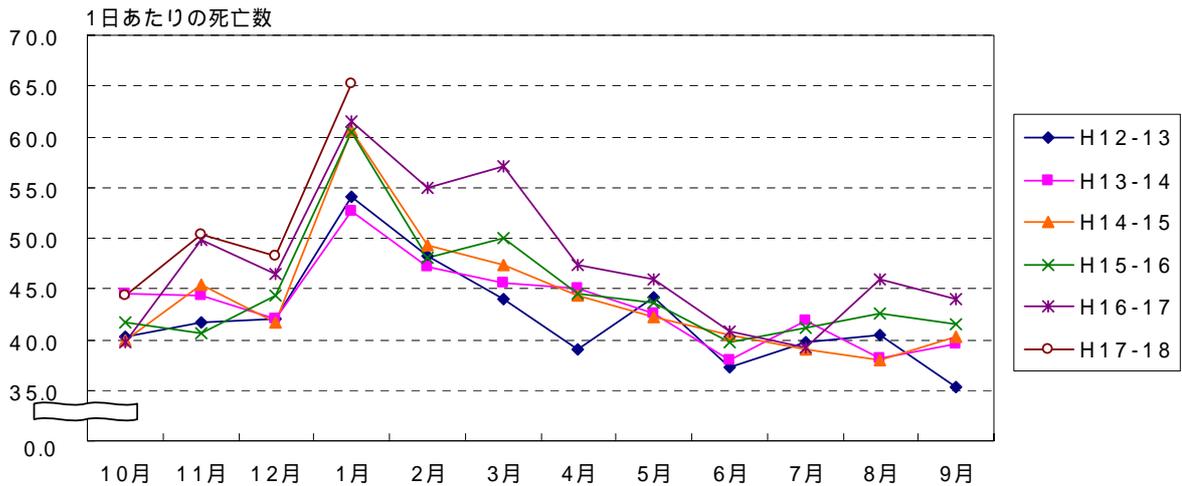
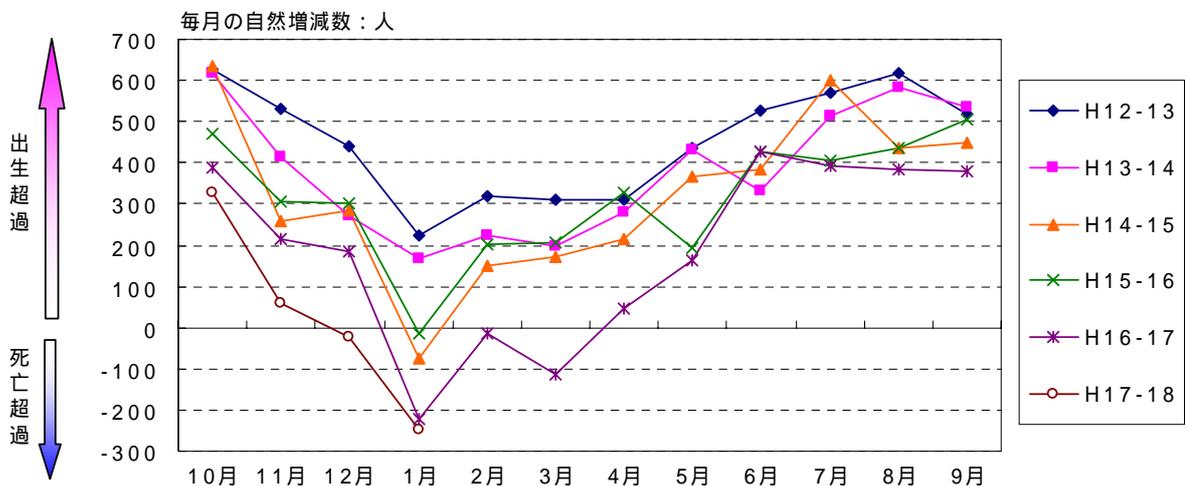


図6 毎月の自然増減数の推移



3 社会増減 (1) 年次推移

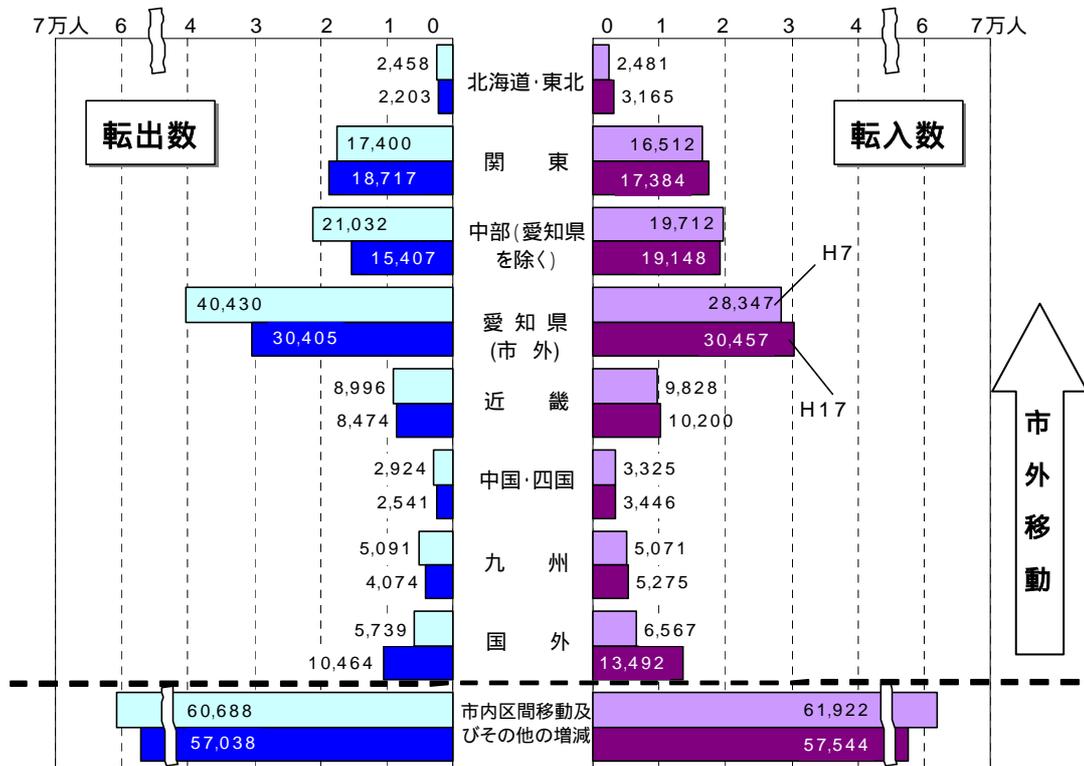
愛知県との社会増減は転出数の減少により年々改善、平成 17 年は社会増に転じる

平成 17 年の本市と他地域との移動をみると、転入数・転出数とも、愛知県（名古屋市外。以下、同じ）が最も多く、いずれも 3 万人を超えている。その他の地域では、中部、関東及び国外が転出入ともに 1 万人以上となっている。社会増減は、関東を除き、いずれの地域からも転入超過（社会増）となった。

10 年前の平成 7 年と比較すると、転入数は、中部を除き、いずれの地域も増加しており、特に国外からは倍増、愛知県は 2 千人以上の増加となっている。転出数は、関東及び国外を除き、いずれの地域も減少しており、特に愛知県及び中部は 4 分の 3 の規模に縮小した。 [図 7、図 8、付表 3]

平成 7 年以降の年次推移をみると、愛知県からの転入数は毎年 3 万人前後で比較的安定して推移したのに対し、転出数は一貫して減少し続けた（10 年で約 1 万人減）ことにより、社会増減は年々改善し、平成 17 年は社会増に転じた。同様に、中部（愛知県を除く）は、転入数は 2 万人前後で推移し、転出数は減少傾向で推移したため、平成 8 年以降、社会増が続いている。一方、関東は、平成 13 年に社会減が 4,000 人弱まで拡大したものの、平成 14 年以降、転入数は増加傾向、転出数は減少傾向で推移し、社会増減は改善基調となっている。 [図 9、付表 3]

図 7 地域別転入数及び転出数 ~平成 7 年と平成 17 年の比較~



(注) 1 頁の転入数(160,119 人)には前住地不詳を含むため、上記内訳の合計とは一致しない。

図 8 地域別社会増減 ~平成 7 年と平成 17 年の比較~

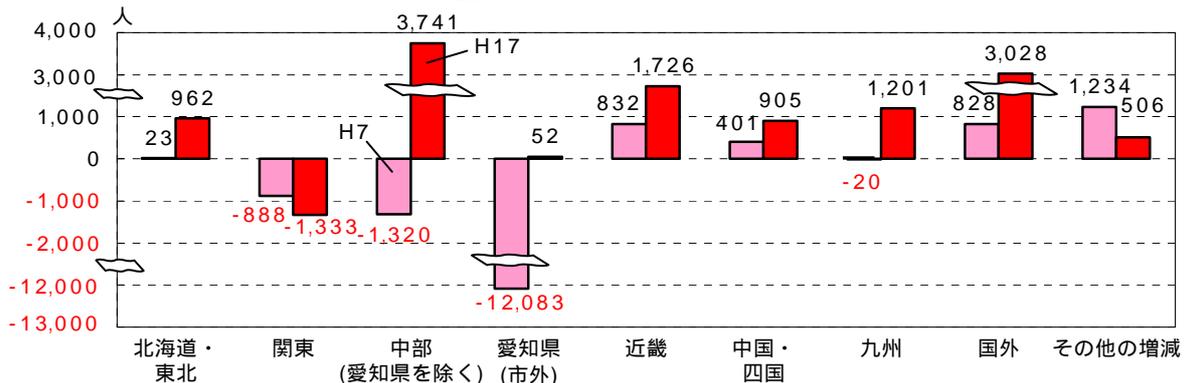
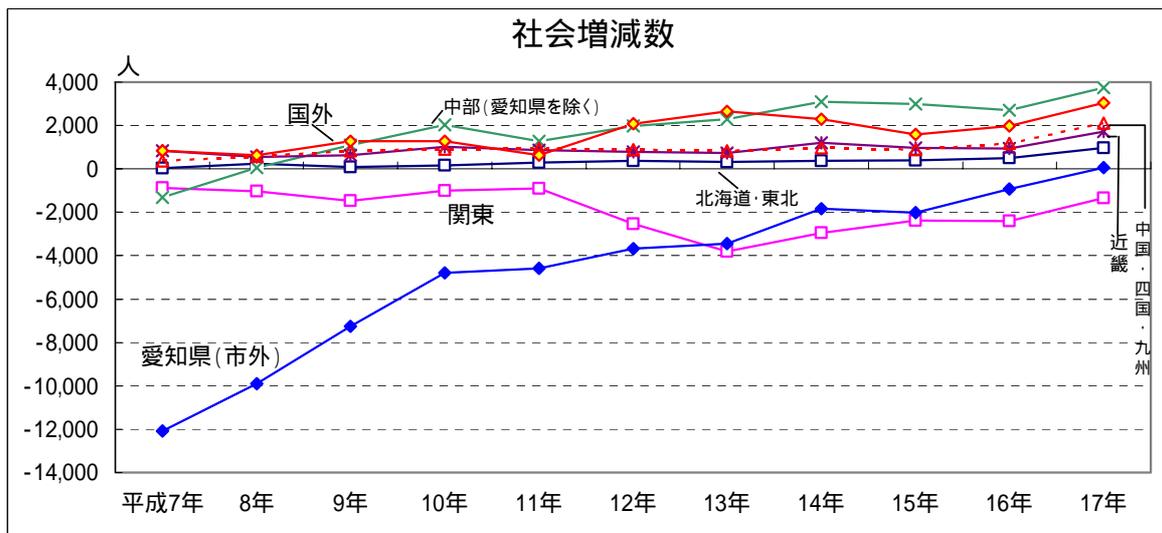
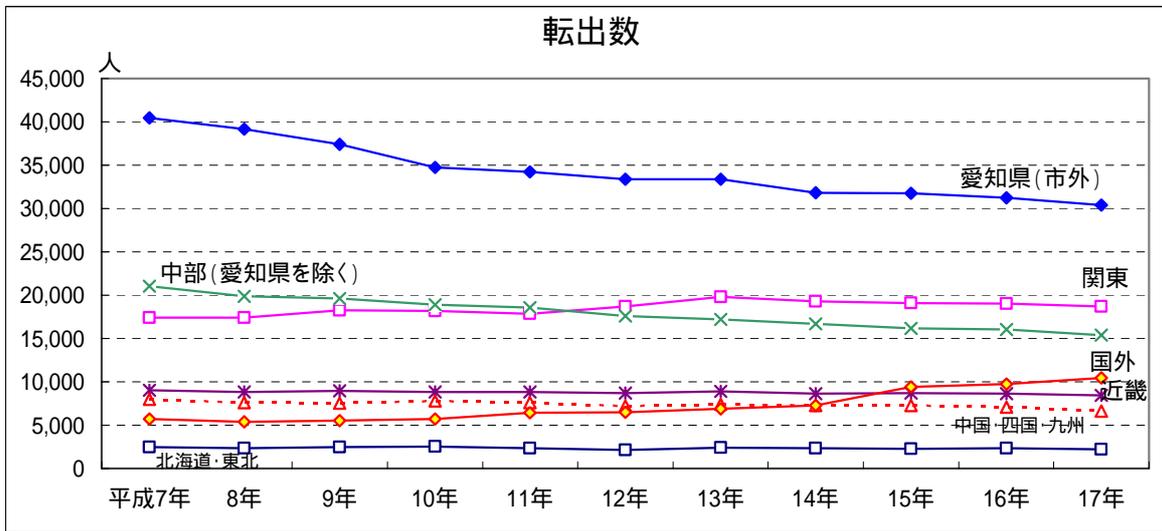
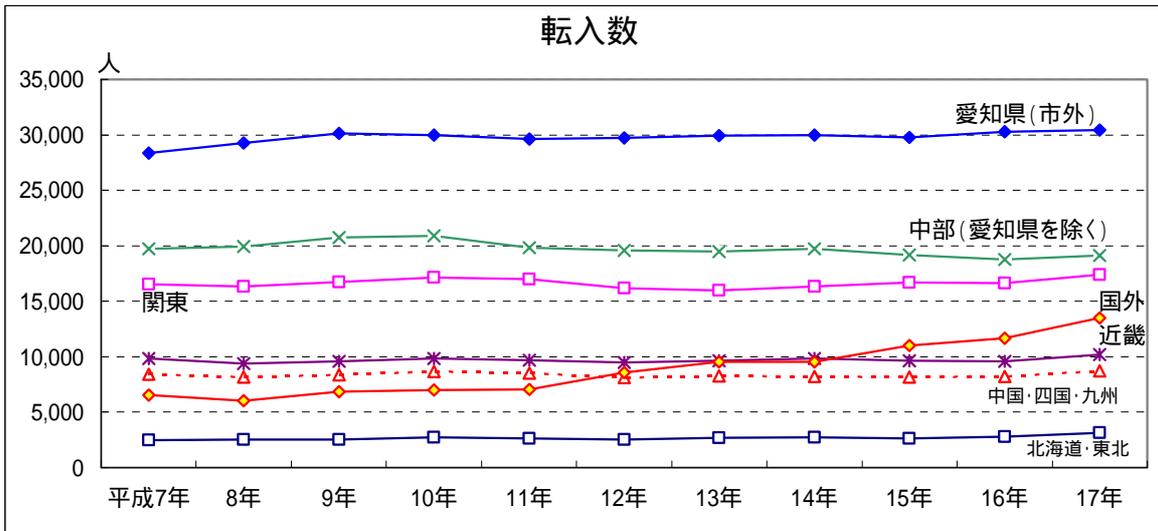


図9 地域別転入数・転出数・社会増減数の推移



付表3 地域別転入数・転出数・社会増減数の推移

地域別	各年前年10月～当該年9月										
	平成7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年
	転 入 数										
北海道・東北	2,481	2,545	2,559	2,720	2,630	2,546	2,698	2,714	2,637	2,813	3,165
関東	16,512	16,355	16,746	17,167	16,976	16,179	15,999	16,344	16,701	16,643	17,384
中部（愛知県を除く）	19,712	19,925	20,723	20,911	19,845	19,571	19,462	19,745	19,184	18,769	19,148
愛知県	28,347	29,279	30,154	29,964	29,616	29,726	29,908	30,000	29,761	30,283	30,457
近畿	9,828	9,382	9,592	9,827	9,665	9,475	9,626	9,829	9,661	9,611	10,200
中国・四国	3,325	3,242	3,278	3,475	3,399	3,284	3,344	3,228	3,274	3,186	3,446
九州	5,071	4,907	5,092	5,206	5,128	4,819	4,921	4,988	4,895	5,053	5,275
国外	6,567	6,027	6,830	7,006	7,055	8,552	9,525	9,557	10,993	11,690	13,492
	転 出 数										
北海道・東北	2,458	2,318	2,463	2,551	2,342	2,167	2,389	2,340	2,255	2,322	2,203
関東	17,400	17,398	18,223	18,171	17,870	18,720	19,802	19,297	19,071	19,044	18,717
中部（愛知県を除く）	21,032	19,878	19,637	18,883	18,573	17,605	17,179	16,658	16,190	16,071	15,407
愛知県	40,430	39,187	37,419	34,750	34,189	33,399	33,357	31,847	31,770	31,223	30,405
近畿	8,996	8,835	8,972	8,801	8,812	8,692	8,902	8,627	8,690	8,663	8,474
中国・四国	2,924	2,967	2,878	2,930	2,827	2,625	2,952	2,839	2,802	2,783	2,541
九州	5,091	4,599	4,666	4,832	4,763	4,581	4,466	4,413	4,473	4,276	4,074
国外	5,739	5,392	5,544	5,720	6,438	6,462	6,882	7,262	9,412	9,726	10,464
	社 会 増 減 数										
北海道・東北	23	227	96	169	288	379	309	374	382	491	962
関東	-888	-1,043	-1,477	-1,004	-894	-2,541	-3,803	-2,953	-2,370	-2,401	-1,333
中部（愛知県を除く）	-1,320	47	1,086	2,028	1,272	1,966	2,283	3,087	2,994	2,698	3,741
愛知県	-12,083	-9,908	-7,265	-4,786	-4,573	-3,673	-3,449	-1,847	-2,009	-940	52
近畿	832	547	620	1,026	853	783	724	1,202	971	948	1,726
中国・四国	401	275	400	545	572	659	392	389	472	403	905
九州	-20	308	426	374	365	238	455	575	422	777	1,201
国外	828	635	1,286	1,286	617	2,090	2,643	2,295	1,581	1,964	3,028

(注) 総数には前住地・転出先不祥を含む。

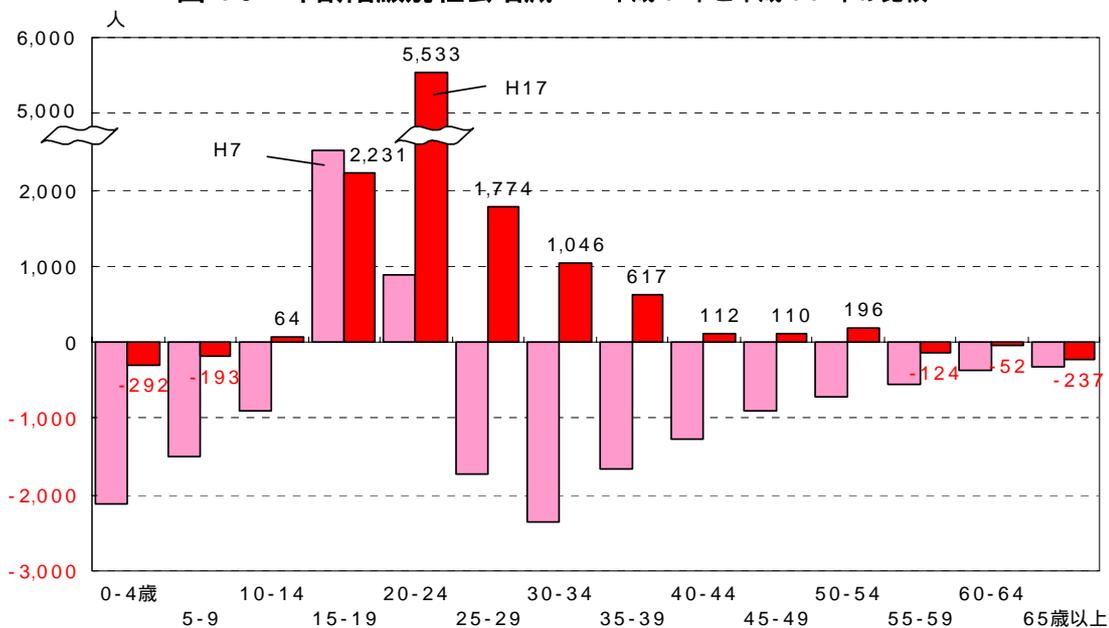
(2) 年齢階級別社会増減

10年間で、「20～24歳」の転入超過幅が大幅に拡大

年齢階級別の社会増減を10年前と比較すると、「15～19歳」の年齢階級は転入超過幅が縮小したが、「20～24歳」の階級は転入超過幅が6.3倍と大幅に拡大した。

その他の年齢階級では、「10～14歳」及び「25～54歳」の各階級が転出超過から転入超過に転じ、「0～9歳」及び「55歳以上」の階級で転出超過幅が縮小した。 [図10、図12、付表4]

図10 年齢階級別社会増減 ～平成7年と平成17年の比較～



(3) 青年層の地域別社会増減

「20～24歳」は、いずれの地域からも転入超過

平成17年において年齢階級別社会増減の転入超過幅が大きい青年層(15～29歳)についてみると、「15～19歳」は関東及び近畿で転出超過、「20～24歳」は、いずれの地域からも転入超過、「25～29歳」は関東及び愛知県で転出超過となった。 [図11]

図11 青年層の地域別社会増減 ～平成17年～

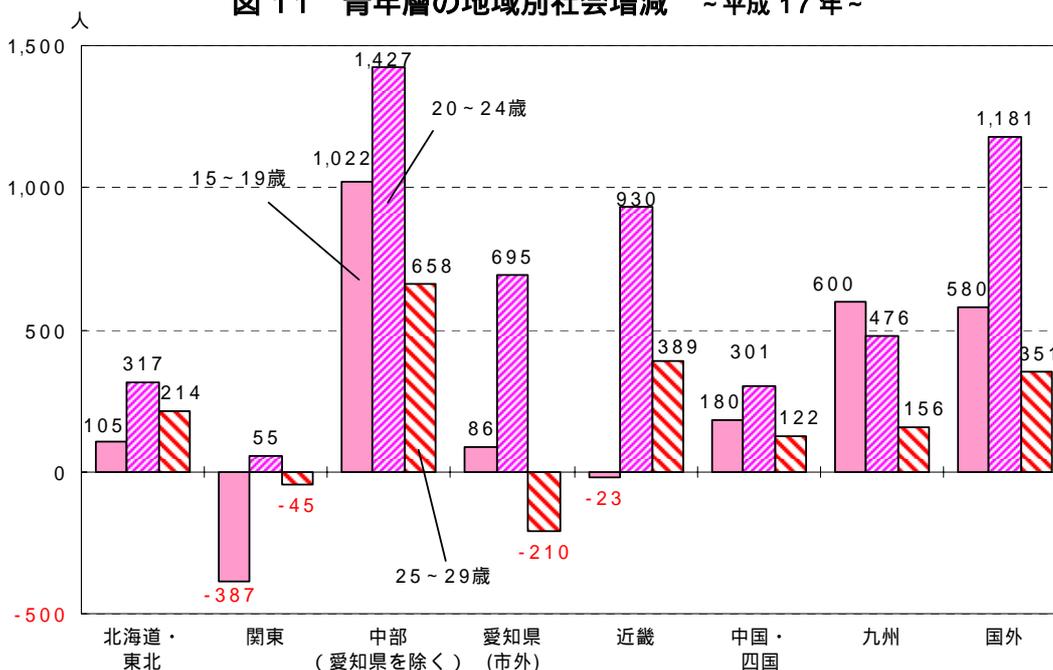
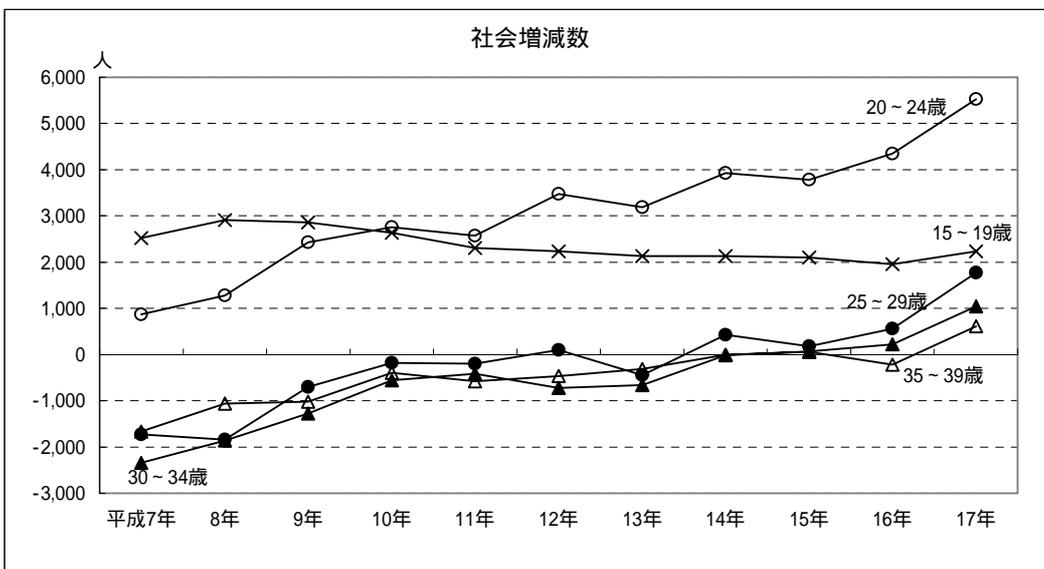
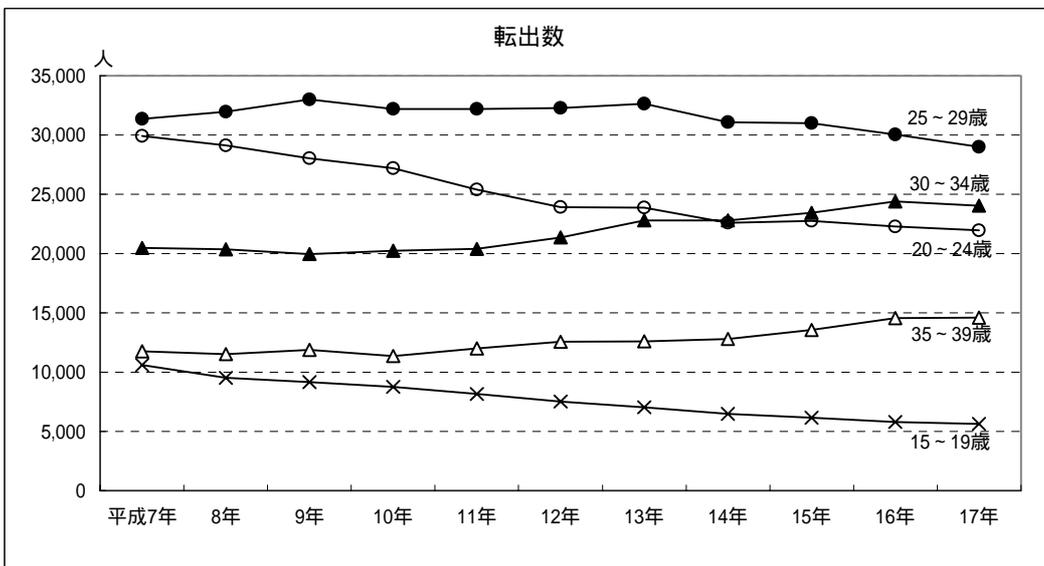
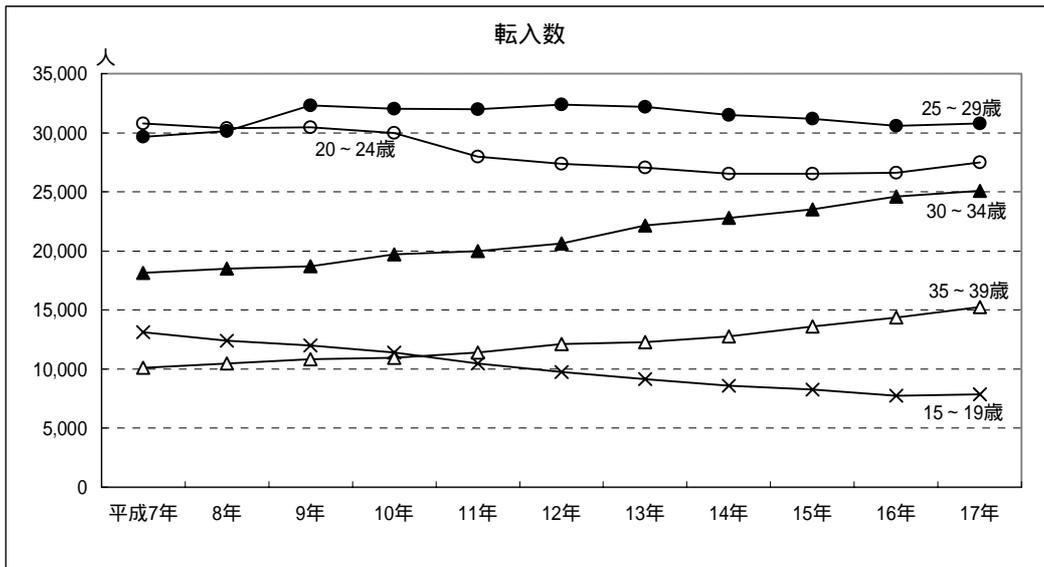


図 12 年齢階級別転入数・転出数・社会増減数の推移（15～39歳）

各年前年10月～当該年9月



付表4 年齢5歳階級別転入数・転出数・社会増減数の推移

年齢階級別	各年前年10月～当該年9月										
	平成7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年
	転 入 数										
総 数	153,786	153,798	156,865	155,653	153,209	152,679	154,113	153,868	154,359	156,096	160,119
0～4歳	10,380	10,248	10,620	10,403	10,250	10,303	10,681	10,322	10,302	10,376	10,248
5～9	6,349	6,390	6,173	6,026	5,901	5,702	5,748	5,905	5,795	5,774	5,788
10～14	3,990	3,888	3,784	3,640	3,356	3,350	3,103	3,183	2,951	2,902	3,096
15～19	13,110	12,411	12,010	11,403	10,475	9,764	9,167	8,609	8,253	7,766	7,866
20～24	30,796	30,400	30,472	29,970	27,976	27,384	27,054	26,533	26,528	26,617	27,511
25～29	29,645	30,137	32,302	32,019	31,984	32,380	32,184	31,525	31,195	30,598	30,767
30～34	18,123	18,515	18,686	19,690	19,996	20,623	22,148	22,782	23,510	24,606	25,103
35～39	10,105	10,484	10,847	10,971	11,411	12,104	12,301	12,780	13,610	14,351	15,237
40～44	7,300	7,141	6,975	6,922	6,926	6,818	6,966	7,526	7,837	8,100	8,684
45～49	6,790	7,135	7,182	6,756	6,120	5,669	5,471	5,173	5,312	5,452	5,676
50～54	5,126	4,990	5,134	5,167	5,548	5,701	6,131	6,101	5,505	5,188	5,104
55～59	3,603	3,664	3,897	3,992	4,085	4,103	3,853	4,000	3,974	4,295	4,714
60～64	2,921	2,986	2,906	2,860	2,983	2,770	2,944	2,966	2,970	3,222	3,344
65歳以上	5,539	5,392	5,844	5,794	6,149	5,969	6,316	6,422	6,570	6,823	6,945
	転 出 数										
総 数	164,758	161,620	160,541	154,979	153,605	151,839	153,661	149,820	150,939	151,131	149,323
0～4歳	12,504	12,278	11,990	11,255	11,054	11,117	11,664	10,828	10,873	10,906	10,540
5～9	7,843	7,629	7,247	6,578	6,472	6,305	6,354	6,200	6,081	6,174	5,981
10～14	4,878	4,701	4,561	4,062	3,821	3,663	3,516	3,401	3,189	3,177	3,032
15～19	10,591	9,505	9,153	8,766	8,171	7,526	7,032	6,479	6,155	5,813	5,635
20～24	29,924	29,118	28,048	27,213	25,399	23,909	23,866	22,608	22,746	22,272	21,978
25～29	31,376	31,977	33,007	32,193	32,184	32,279	32,624	31,099	31,010	30,032	28,993
30～34	20,470	20,374	19,965	20,251	20,407	21,348	22,807	22,793	23,439	24,381	24,057
35～39	11,774	11,540	11,870	11,367	11,984	12,571	12,612	12,781	13,551	14,572	14,620
40～44	8,575	7,963	7,691	7,239	7,359	7,175	7,382	7,548	7,947	8,160	8,572
45～49	7,699	7,951	7,868	7,048	6,599	5,981	5,727	5,313	5,457	5,391	5,566
50～54	5,837	5,596	5,388	5,572	5,984	6,072	6,261	6,360	5,816	5,290	4,908
55～59	4,145	3,995	4,213	4,273	4,433	4,430	4,268	4,364	4,358	4,639	4,838
60～64	3,276	3,188	3,195	3,012	3,202	2,981	2,994	3,169	3,291	3,404	3,396
65歳以上	5,860	5,799	6,326	6,125	6,493	6,442	6,514	6,845	6,980	6,897	7,182
	社 会 増 減 数										
総 数	-10,972	-7,822	-3,676	674	-396	840	452	4,048	3,420	4,965	10,796
0～4歳	-2,124	-2,030	-1,370	-852	-804	-814	-983	-506	-571	-530	-292
5～9	-1,494	-1,239	-1,074	-552	-571	-603	-606	-295	-286	-400	-193
10～14	-888	-813	-777	-422	-465	-313	-413	-218	-238	-275	64
15～19	2,519	2,906	2,857	2,637	2,304	2,238	2,135	2,130	2,098	1,953	2,231
20～24	872	1,282	2,424	2,757	2,577	3,475	3,188	3,925	3,782	4,345	5,533
25～29	-1,731	-1,840	-705	-174	-200	101	-440	426	185	566	1,774
30～34	-2,347	-1,859	-1,279	-561	-411	-725	-659	-11	71	225	1,046
35～39	-1,669	-1,056	-1,023	-396	-573	-467	-311	-1	59	-221	617
40～44	-1,275	-822	-716	-317	-433	-357	-416	-22	-110	-60	112
45～49	-909	-816	-686	-292	-479	-312	-256	-140	-145	61	110
50～54	-711	-606	-254	-405	-436	-371	-130	-259	-311	-102	196
55～59	-542	-331	-316	-281	-348	-327	-415	-364	-384	-344	-124
60～64	-355	-202	-289	-152	-219	-211	-50	-203	-321	-182	-52
65歳以上	-321	-407	-482	-331	-344	-473	-198	-423	-410	-74	-237

(注) 総数には年齢不祥を含む。

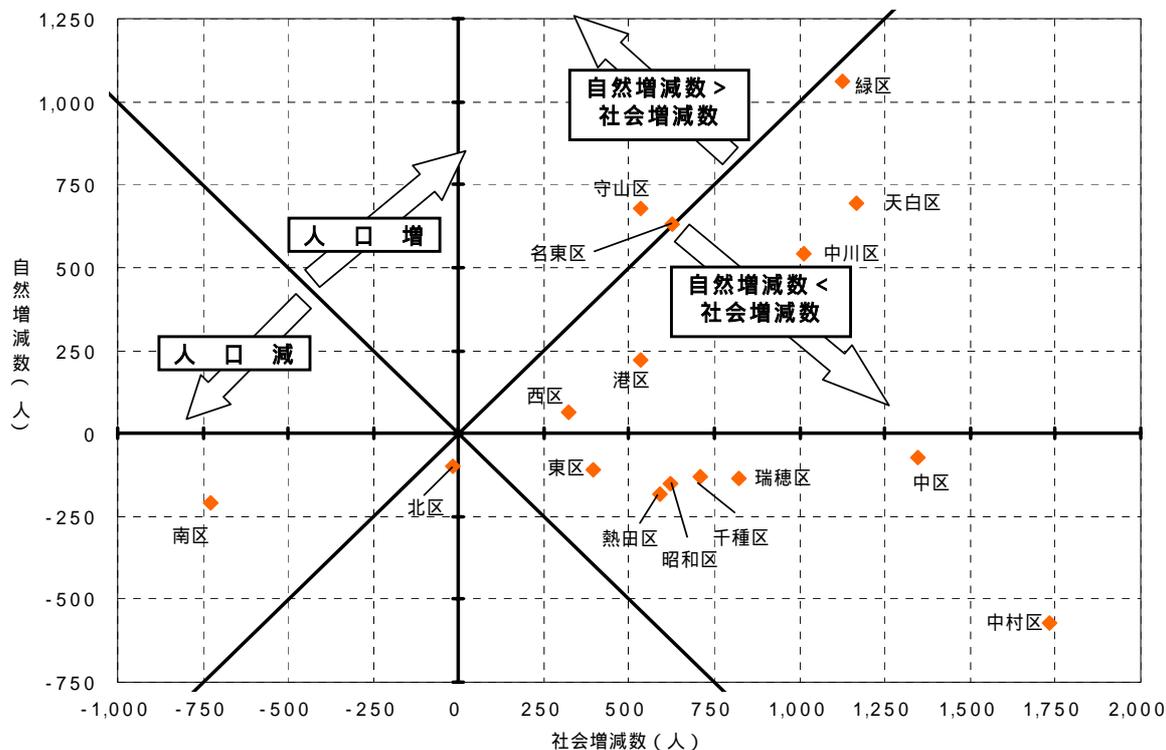
4 区別動向

7区で自然増かつ社会増

平成17年の区別の自然増減は7区で自然増、社会増減（市外のほか、市内区間移動及びその他の増減を含む）は14区で社会増となった。

社会増となった区のうち、自然増減が自然増となったのは7区あり、さらに出生超過数が転入超過数を上回ったのは守山区及び名東区の2区である。 [図13、付表5]

図13 各区の自然増減数及び社会増減数 ~平成17年~



付表5 区別自然増減数・社会増減数

平成16年10月～平成17年9月

区名	出生数	死亡数	自然増減数	転入数	転出数	社会増減数
全市	19,647	17,412	2,235	160,119	149,323	10,796
千種区	1,092	1,220	-128	14,066	13,358	708
東区	501	608	-107	6,708	6,314	394
北区	1,336	1,437	-101	9,913	9,930	-17
西区	1,338	1,276	62	9,151	8,826	325
中村区	908	1,477	-569	10,119	8,388	1,731
中区	473	545	-72	11,805	10,456	1,349
昭和区	737	886	-149	9,468	8,849	619
瑞穂区	808	946	-138	7,282	6,461	821
熱田区	404	588	-184	5,212	4,623	589
中川区	2,204	1,663	541	12,120	11,106	1,014
港区	1,483	1,263	220	8,563	8,031	532
南区	1,134	1,344	-210	7,806	8,532	-726
守山区	1,835	1,156	679	9,887	9,351	536
緑区	2,234	1,172	1,062	11,310	10,183	1,127
名東区	1,537	904	633	14,353	13,725	628
天白区	1,623	927	696	12,356	11,190	1,166

利用上の注意

概要

この資料は「平成 17 年愛知県人口動向調査」の名古屋市分集計結果である。この調査は、直近の国勢調査の結果をベースに、住民基本台帳及び外国人登録における毎月の出生、死亡、転入、転出などの異動数を加減することにより、人口及び世帯数の推計を行っているもので、今回は平成 16 年 10 月～平成 17 年 9 月までの 1 年間の異動状況を取りまとめている。

従って、平成 16 年 10 月 1 日現在の人口にこの 1 年間の異動数を加減しても、必ずしも平成 17 年国勢調査人口には一致しない。

地域区分

地域は次の区分による。

[北海道] 北海道

[東 北] 青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県

[関 東] 茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

[中部 (愛知県を除く)] 新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、三重県

[愛知県] 愛知県内の名古屋市以外の市町村

[近 畿] 滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県

[中 国] 鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県

[四 国] 徳島県、香川県、愛媛県、高知県

[九 州] 福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

[国 外] 国外

用語の解説

自然増減

「出生数 - 死亡数」により求める。出生数が死亡数より多いとき「自然増」、またその逆を「自然減」といい、それぞれ「出生超過」、「死亡超過」ともいう。

社会増減

「転入数 - 転出数」により求める。転入数が転出数より多いとき「社会増」、またその逆を「社会減」といい、それぞれ「転入超過」、「転出超過」ともいう。

人口動態統計

出生、死亡、婚姻、離婚等の実態を明らかにするために各届書等から作成された人口動態調査票を取りまとめたもので、いわゆる業務統計に該当する。従って人口動向調査とは集計方法が異なるため、出生数、死亡数等の数値は両者の間で一致はしない。

統計数値

構成比等の内訳数値は、表章単位未満を四捨五入しているため、その合計は総数と必ずしも一致しない。

「0.0」は表章単位に満たない場合、「...」は不詳、「-」は負数、「-」は該当数値のない場合を示し、増減数としてのゼロは「0」としている。